

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23300296

研究課題名(和文)国内外の日本語教師の職能開発を支援する電子ティーチング・ポートフォリオの開発

研究課題名(英文)Development of E-teaching Portfolio for Professional Learning of Japanese Language Teachers Domestic and Overseas

## 研究代表者

加藤 由香里(KATO, YUKARI)

東京農工大学・大学教育センター・准教授

研究者番号：90376848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国内外で活動する日本語教師が、ネットワーク上で他の教師との交流を通じて、自らの教師としての成長を考える「教育の学問的研究(SoTL)」を支援した。2012年4月からの6カ月間を分析した結果(1)交流活動が十分でなかった、(2)若手教師からの自発的な意見表明が難しい(3)参加者同士の意見交換を活性化するためのルール作りが必要である(4)ティーチング・ポートフォリオ作成が有意義であったの4点が明らかになった。この結果をふまえ、参加者で興味のあるサブグループを作る活動形式に改めた。2つのサブグループで、WEBサイトを通じた交流数の増加し、現実の問題を解決するための議論と交流が行われた。

研究成果の概要(英文)：This project promotes teacher collaboration for the professional development of Japanese language teachers. Practical activities in an e-portfolio and Learning Management System for six months, following which a focus group interview and questionnaires revealed the following: (1) participants did not have sufficient opportunities to communicate with each other; (2) young teachers were hesitant to express their ideas and opinions to senior participants; (3) continuing discussion among participants was needed to build and sustain a community of practitioners; and (4) e-teaching portfolio was the effective tools for focusing on and analyzing their own practices. Based on this practice, participants were divided into eight sub-groups and were collaboratively conducting project work for student exchange and planning the seminar for local teachers through web sites.

研究分野：教育学

キーワード：日本語教育 日本語教師養成 遠隔教育 教員養成 教育実践研究 協同学習

### 1. 研究開始当初の背景

2009年の国際交流基金の調査によれば、国内外で活動する日本語教師も世界133の国と地域で5万人にのぼる。その仕事は、日本語教室の運営から、現地教員への助言・指導、教材制作まで、派遣国の教育行政や日本語教育事情に合わせた企画・立案能力が求められている。しかし、このような幅広い実践力を短期間の実習だけで養成することは難しく、現職教師が各教育現場における具体的な職務を通じて、必要な知識・技術・態度など修得していく持続的な専門家教育が必要とされている。

現在、開発されている教師の成長を支援するシステムは、ベテランから若手への指導支援が中心であり、さまざまな環境で活動する日本語教師に対しては、十分とはいえない。そこで本研究では、自らが課題を設定し、実践を振り返りながら解決策を見出す過程を支援するシステムの開発が求められている。

### 2. 研究の目的

本研究では、国内外で教える日本語教師が、自らの教育実践をネットワーク上で公開し、複数の教師で相互に検討し合っ実践的な知見を蓄積していく「電子ティーチング・ポートフォリオ」を開発した。このシステムでは、自らの状況を最もよく知る教師自身が、課題を設定し、自らの実践を振り返りながら解決策を見出す過程を支援する点を特徴とする。これにより、研修の機会の少ない現職教師が、様々な経験を持つ教師と連携しながら、自らの教育実践を改善していく持続的な教師教育を実現する。

さらに、ティーチング・ポートフォリオとして公開された教育実践を検討し、有効な教育リソースとして再利用するための検索機能を充実させることを目指した。

本研究では、自立的な専門家の養成を目指し、日本語教師が自らの置かれた状況に合わせて課題を設定し、実践を振り返りながら解決策を見出していく過程を支援する点を特徴とした。また、システムを利用して個別の教育事例を記録し、それを他の教師と連携しながら分類、整理することによって、他の教育現場にも応用可能な「教育実践の理論化」を進める点が特徴的である。

### 3. 研究の方法

本プロジェクトでは、現職の日本語教師が専門的な知識と技能を学ぶ遠隔学習サイト「語学教師の成長サポート」(<https://lms.kato-yukari.net/>)と実践活動を振り返るeポートフォリオ「かとプロ」(<https://sns.katoyukari.net/>)を構築した。参加者らは、この2つの枠組みを利用して、自らの教育実践を記録して公開し、それを相互に検討しあうための実践活動を行った。

2012年5月から、2つのサイト(「語学教師の成長サポート」と「かとプロ」)の利用

を開始し、6ヶ月ごとに新たな参加者を募る運営方式をとった。

第一期(2012年4月~9月)は、国内外の教育機関で教える日本語教師9名(国内日本語教師5名、海外日本語教師4名)とメンター4名(日本語教師3名、システム担当1名)で活動を開始した。

第二期(2012年10月-2013年4月)は、第一期の継続メンバー8名を含む19名で活動した。第三期(2015年4月-)は、日本語教師志望者なども含めた多様なメンバーで活動を継続した。

本研究では、実際の参加者を国内外から募り、開発したサイトで実践的な知見が蓄積可能であるかについて、参加者に対するインタビュー、アンケート、システム上のログデータなどから質的な分析を行った。

### 4. 研究成果

本研究では、国内外で活動する日本語教師にネットワークを通じて「専門的な教師教育プログラム」と「教師交流の場」を提供することにより、持続的な成長を支援している。このシステム開発により、日本語教師は、自らの実践を公開し、様々な経験を持つ教師と連携しながら教育実践に関わる知見を蓄積していくことができる。国内外の日本語教師が、自らの授業実践を記録して公開し、それを相互に検討しあうための「分類指標」と「授業実践例」を備えた電子ティーチング・ポートフォリオを開発した。

2012年5月から、2つのサイト(「語学教師の成長サポート」と「かとプロ」)の利用を開始し、実際に参加者を募っての現職教師の実践交流活動を行った。

第1期(2012年4月~9月)は、国内外の教育機関で教える日本語教師9名とメンター4名で活動を開始した。さらに、第2期(2012年10月-2013年4月)では、第1期の継続メンバー8名を含む19名で活動した。これらの実践活動の教育効果を検証するために(1)カリキュラム、(2)支援ツール、(3)共同体の人間関係の3要素に分けて学習環境を検討した。

その結果、第1期は、個人の「教師としての資質向上」を目指す【カリキュラム】として、実践を記録するための情報リテラシーの学習、ならびに実践の振り返りと改善を中心に支援した。そのため、【支援ツール】であるシステムは、参加者同士の自発的な【人間関係】の構築には利用されず、メンターから参加者への指示ならびに連絡に主に用いられた。参加者からも、期待したほど参加者同士の交流が多くなかったという意見が聞かれた。

第2期は、第1期の反省をふまえて、参加者の興味に応じた多様な活動の展開を目指した。ファッシリテータを中心としたサブグループごとの情報共有、プロジェクトワークの遂行、教育研究などサブグループによる活

動にプロジェクトをすすめた。

その結果、参加者からの提案された自発的なプロジェクトが【カリキュラム】として提案された。また、いくつかのサブグループの参加者間での自由な討論や意見交換も頻繁に見られ、友好的な【人間関係】で観察された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

Yukari Kato(2014) Professional Development: Fostering Integrative Knowledge and Pedagogy of Japanese Language Teachers through e-Portfolio, International Journal for Educational Media and Technology, vol.8, (pp.24-40), 査読有

加藤由香里 (2014) 日本語教師の実践交流コミュニティによる専門的成長の支援, 『教育メディア研究』 第20号, 第2号 (pp. 35-44), 査読有

加藤由香里 (2014) 授業観察システムを利用した授業検討会における FDer の役割, 『教育システム情報学会誌』, vol.31, No.1, (110-118), 査読有

Yukari Kato(2013) A Virtual Collaboration for the Professional Development of Japanese Language Teachers, Asia-Pacific Collaborative Education Journal, Vol.9, No.1 (pp. 53-61), 査読有

Yukari Kato (2012) Practice of Teaching Community to Promote Peer Review for Quality Assurance, International Journal for Educational Media and Technology, vol.6, pp.51-60, 査読有

加藤由香里 (2012) 高等教育における内部質保証に向けた授業ピアレビューの実践, 教育システム情報学会誌, vol.29, No.1, pp.63-68, 査読有

[学会発表](計 25 件)

Yukari Kato (2014) An Active Model for Professional Development in Japanese Language Teacher Education, 第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム香港(中国), (2014年11月15日-16日) (p.56)

Yukari Kato (2014) A New Model for Professional Development of Japanese Language Teachers in Higher Education, ICOME 2014, Seoul, Korea, (2014年8月25日-27日) (p.21)

Yukari Kato (2014) A Collaborative Teaching and Learning for Japanese Language Teachers in Higher Education (高等教育における日本語教師を対象とした協調的な学習と教授) CAJLE 2014, Montreal, Canada (2014年8月20日-21日) (p.28)

Yukari Kato (2013) A Virtual Community for the Professional Development of Japanese Language Teachers Domestic and Overseas, PNC Kyoto University (京都府・京都市), Japan (2013年12月10日-12日発表)

Yukari Kato (2013) Online Systems for Sustainable Professional Development in Japanese Language Teacher Education (持続的成長を支援する日本語教師教育オンラインシステム) CAJLE 2013, Toronto, Canada (2013年8月21日-24日) (p.48)

Yukari Kato (2013) Organizing a Learning Community for Japanese Language Teacher Education, SITE 2013, New Orleans, USA (2013年3月25日-29日)

加藤由香里 (2013) 高等教育における教育実践の評価者としての FDer の役割, 教育システム情報学会研究会(於山口大学(山口県・山口市), 2013年3月16日)

加藤由香里 (2013) 国内外の日本語教師の持続的成長を支援する eポートフォリオ, 第19回大学教育研究フォーラム(於京都大学(京都府・京都市)2013年3月14日)

加藤由香里 (2013) バーチャルコミュニティにおける国内外の日本語教師の交流活動, 電子情報通信学会 ET 研究会(於東京農工大学(東京都・小金井市), 2013年1月12日), 信学技報 pp.51-55

藤川美穂, 加藤由香里, 古屋憲章 (2012) 省察的実践のための教師学習コミュニティ成立条件, 日本教育工学会研究会(於東京学芸大学(東京都・小金井市), 2012年12月15日)

加藤由香里 (2012) 国内外で活動する日

本語 教師の情報リテラシー調査,日本教育メディア学会研究会(於茨城大学(茨城県・水戸市),2012年12月8日)

Yukari Kato (2012) Virtual Community for Professional Development of Japanese Language Teachers, 5th edition, International Conference ICT for Language Learning, Florence, Italy(2012年11月15日-16日)

加藤由香里 (2012) 国内外の教師交流ネットワークを活用した日本語学習コンテンツの開発と評価,私立大学情報教育協会(於アルカディア市ヶ谷(東京都・千代田区),2012年9月6日)

加藤由香里 (2012) 日本語教師の実践を検証する e ポートフォリオ,第19回日本教育メディア学会年次大会(於東北学院大学(宮城県・仙台市),2012年9月1日)

Yukari Kato(2011) Learning Community to Encourage Professional Development of Japanese Language Teachers, 第5回 CASTEL-J, Nagoya University of Foreign Studies(愛知県・日進市)(2012年8月20日-22日)

加藤由香里・古屋憲章・藤川美穂 (2012) 日本語教師の成長を支援する学習サイトの運営,第5回 CASTEL-J, Nagoya University of Foreign Studies(愛知県・日進市)(2012年8月20日-22日)

加藤由香里 (2012) 日本語教師支援のための情報リテラシー学習サイトの開発,日本語教育国際研究大会,名古屋大学(愛知県・名古屋市)(2012年8月17日-20日)

Yukari Kato (2012) FD Commons to Enhance the Culture and Teaching and Learning as Collaborative Practice, Ed-MediaI2012(Virtual Presentation), Denver, Colorado, USA(2012年6月26日-28日)

加藤由香里 (2012) 日本語教師の情報活用を支援する e ティーチング・ポートフォリオの開発,The Fourth N.E.A.R. Language Education Conference, Niigata,新潟県立大学(新潟県・新潟市)(2012年5月26日)

丁愚錫, 加藤由香里, 河路由佳 (2011) 韓国語話者のためのマルチメディアを利用した初級日本語アクセント教材,第18回日本メディア教育学会年次大会(於

国際基督教大学(東京都・三鷹市),2011年11月6日)

21 Yukari Kato(2011) Teaching Commons to Promote Self-Reflection and Lesson Study for Professional Development, ICoME2011, Seoul, Korea (2011年8月26日-28日)

22 加藤由香里 (2011) 教育的な議を深めるツールとしてのティーチング・ポートフォリオ 日本語教育の教授ノウハウを他分野との協力・連携へどのように活かすか,日本語教育学会秋季大会(於米子コンベンションセンター(鳥取県・米子市)2011年10月9日)

23 加藤由香里 (2011) 高等教育の内部質保証に向けた教員と学生による授業レビュー実践,教育システム情報学会第36回全国大会,(於広島市立大学(広島県・広島市),2011年8月31日-9月2日)

24 加藤由香里 (2011) 海外赴任準備としての日本語教師のための情報リテラシー教育の実践,教育システム情報学会第36回全国大会,(於広島市立大学(広島県・広島市),2011年8月31日-9月2日)

25 Yukari Kato (2011) Building Commons to Improve Teaching and Learning for Quality Assurance through Peer Review Project, ICALT2011, Athens, GA, USA (2011年7月6日-8日)

{図書}(計2件)

加藤由香里 (2012) 『12.教育工学・教材工具』近藤安月子・小森和子(編著)『研究社日本語教育事典』pp.247-258,研究社

加藤由香里(2012)『スーパーバイザーの役割』,大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会(編著),『実践ティーチング・ポートフォリオスターターブック』,NTS,pp.105-107.

{その他}

ホームページ等

<http://www.katoyukari.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤由香里 (KATO YUKARI)

東京農工大学・大学教育センター・准教授  
研究者番号: 90376848

(2) 研究分担者

河路由佳 (KAWAJI YUKA)

東京外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：00272641

石川正敏 (ISHIKAWA MASATOSHI)  
東京成徳大学・経営学部・准教授  
研究者番号：90332973

渡辺健次 (WATANABE KENJI)  
広島大学・教育学研究科・教授  
研究者番号：00220880  
(H25年から連携研究者)

林敏浩 (HAYASHI TOSHIHIRO)  
徳島大学・総合情報センター・教授  
研究者番号：90264142  
(H25年から連携研究者)

並木美太郎 (NAMIKI MITARO)  
東京農工大学・工学研究院・教授  
研究者番号：10208077  
(H24年から連携研究者)

大谷尚 (OOTANI TAKASHI)  
名古屋大学・教育学研究科・教授  
研究者番号：50128162  
(H24年から連携研究者)

深川美帆 (FUKAGAWA MIHO)  
金沢大学・留学生センター・准教授  
研究者番号：00583171  
(H25年から連携研究者)

(3)研究協力者

古屋憲章 (FURUYA NORIAKI)  
早稲田大学・日本語研究教育センター・  
インストラクター

藤川美穂 (FUJIKAWA MIHO)  
学習院大学・非常勤講師